徳之島空港

1.　空港の概要

徳之島空港は昭和37年2月，日本エアシステムの前身である東亜航空により，滑走路1,080m規模の民間飛行場として開設されたのが始まりである。昭和45年2月に鹿児島県が買収し，整備工事を実施して昭和48年6月から滑走路1,200m×30mのYS-11型機対応の空港として供用を開始し，YSが就航した。

その後第3次空整（昭和51年～55年）により，ジェット化対策が図られ，昭和50年10月に滑走路2,000m×45mでの施設変更許可を得て拡張工事に着手した。昭和54年度までに工事を完了，同55年6月供用を開始し，7月13日からジェット機が就航した。全国の離島の中では最初の本格的なジェット化空港としてのスタートであった。

以来滑走路の嵩上げ工事をはじめ，エプロンの拡張，場周道路の整備等が行われて現在に至っている。路線の中心は徳之島―鹿児島間で，日本エアシステムによって運航されている。このほか奄美及び大阪（鹿児島経由）との間にも路線がある。

空港諸元　　徳之島空港

空港名（コード）		徳之島空港（TKN）		
設置管理者		鹿児島県	種別	第3種
供用年月日		昭和37年2月		
所在地		天城町中心部から2km		
空港の面積（ha）		58.6		
基本施設	滑走路	2,000×45m		
	誘導路	416×18m～23m		
	スポット	3		
空港の運用状況		国内線	国際線	合計
	発着回数(回)	4,380	0	4,380
	乗降客数(人)	165,524	0	165,524
	貨物量(トン)	175	0	175
空港ビル会社		徳之島空港ビル㈱		
旅客ターミナルビル		1,862m²		
駐車施設		173台（県営）		
貨物取扱施設		797m²		
アクセス		バス，タクシー（約8分）		
その他特記事項				

（注）運用状況は平成8年の速報値，発着回数は着陸回数の2倍。

―徳之島空港ビル全景―

2.　ターミナルビル

昭和49年7月竣工のターミナルビルは，平屋建て床面積797m²の建物で，昭和48年5月設立された「徳之島空港ビル株式会社」が管理・運営主体となった。同社は第三セクター方式で鹿児島県と地元3町（天城，徳之島，伊仙）が56%，44%は航空会社，地元企業が出資して設立された。

空港所在地の天城町が資本金（現在5,891万円）の24%を持ち，空港の委託管理及び空港ビル会社の運営に当たるため，歴代町長が空港ビル会社の代表取締役に就任する慣例となっている。

昭和50年代に入り県の徳之島空港ジェット化対策事業も完成し，滑走路も2,000mに延長されて，従来のYS対応のターミナルビルでは狭隘となったため，新ターミナルビルを建設する計画が決定された。

新ターミナルビルは，旧ビルより北側へ68m寄ったところに建設されることになった。3.5億円の工費で鉄筋コンクリート造り，平屋建て（一部2階），床面積1,862m²が新築されて，ジェット化と同時にオープンした。旧ビルは貨物ビルとして活用されている。

徳之島空港はジェット化後期待されたほどの効果は現われず，一時は利用客の落込みもあったが，昭和63年から始まったトライアスロン大会の波及効果が出て来て，近年は明るい展望が開けてきている。**（編集部）**